

2026年度 自己推薦入試【基礎学力型】

国 語

〈全学部全学科共通問題〉

11月1日実施 A日程

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の冊子を開かないでください。
2. 本冊子には、15ページの問題文があります。
3. 解答用紙は、すべてマーク・シートになっています。
4. 監督者の指示で、受験番号欄に受験票に記載されている受験番号（数字6桁）を縦に記入し、それぞれ右のマーク欄にマークしてください。受験番号が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。氏名欄に氏名も忘れず記入してください。
5. 解答科目欄には、解答する科目を1つ選び、マークしてください。
6. 解答は、設問の箇所に指示されている解答番号の解答欄にマークしてください。例えば、と指示されている設問に対して、③と解答する場合は、次の例のように解答番号20の解答欄の③にマークしてください。

(例)

解答 番号	解 答 欄									
20	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

7. 解答番号は～です。～の解答欄には何も記入しないでください。
8. マークは、硬度HB以上の鉛筆を使用し、訂正する場合は消しゴムでていねいに消し、消しくずを残さないように注意してください。
9. 解答時間は、60分です。

問題Ⅰ 次の(一)(二)の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、*の付いた語句には、文末に注があります。

(一)

課題先進国といわれる日本は、これまで人類が経験してこなかった諸問題に見舞われている。急速な人口減少、地方消滅、未曾有の財政赤字、長いデフレ、社会保障の持続可能性、環境激変にともなう災害——これら諸問題は、すべて生活習慣病に似ている。これまでの価値観や生のスタイルを根本的に改めない限り、いずれ破局的な事態が訪れるのではないか。多くの者はそう不安を抱きつつ、しかし、既存のスタイルを改めることができない。慣性の力学から逃れられないのである。では、ここで働いている慣性とは何か？

我々はそれを、近代システムとくに「資本主義&テクノロジー」の魅力のうちに見出したい。いま世界中で、浄土教徒もムスリムも無神論者も、スマホをいじり、電子決済を行っている。なぜか？ 。テクノロジーはその人間の思想信条に関わりなく、万人にとって利便性がある。馬車よりトラックの方が、「ローコストかつスピーディで大量に」ものを運ぶことができよう。それは であり、 ではない。ゆえに、文化の違い価値観の違いを超えて、普遍的に妥当する。これに対し、「阿弥陀来迎」を信じるか「最後の審判」を信じるか、あるいは宗教を「集団神経症」と見なして否定するか、ここには、価値観の超えられない壁があるだろう。 が問題となるからである。ムスリムと無神論者が^{しよんぐさい}贖罪と来世について同意できるとは思えない。だが、馬車よりトラック、郵便よりLH2Eが便利であることには同意できよう。目的が何であれ、手段は便利の方がよい。よって、浄土教徒もムスリムも無神論者も、物品はAmazonで注文し、スマホで決済する。

ここにグローバル化の秘密がある。グローバル化とは、大航海時代から現在にいたるまで、西洋近代システムの地球的拡大を意味しており、それを^{けんいん}牽引し加速させているのは、資本主義とテクノロジーなのである。資本主義もテクノロジーも、「実質・目的」を問題にはしない。ゆえに、世界中に拡散する。

前近代において、真理は聖典や勅令のうちに書き込まれていた。全員を拘束する「正しさ」は、人びとを超えたその上に存在し、人々に下賜されたのである。これに対し近代は、神を殺し、王の首を切った。近代システムでは、「正しさ」は人びとの間に存在し、競争によって導出される。例えば、テクノロジーを支える近代科学において、E。明確な始まり、^{*}アприオリな真理が前提にされることなく、スタートはただ仮説たちの自由競争にすぎない。諸仮説は、実験・観察によってふるいにかけて、勝ち残ったものが暫定的に——つまり反証可能性に開かれつつ——真理として君臨するのである。誤謬たちを媒介に、真理は試行錯誤によって明かされていく。

では、科学に基礎づけられたテクノロジーはどうか。先に見たように、それは目的に奉仕する手段の領域と位置付けられる。ゆえに、それ自体として「良質」なテクノロジーは存在しない。その価値は、目的との関係性に規定され、汎用性（奉仕可能な目的の数）・コスト・速度・分量によってはかれる。手段の領域では、「量」が「質」を規定するといえよう。例えば、近年ちよくちよく登場するスーパーコンピュータ「富岳」について、理化学研究所は語っている。「圧倒的に性能が高く（速度・量）、圧倒的に消費電力が低く、そして汎用性がある」。この最新テクノロジーは、富士山の高さ（能力）と裾野の広がり（コスト・汎用性）を兼ね備えたと称えられるのである。

では次に、資本主義について。テクノロジーと同じく、古代ギリシャ以来経済は、基本的に手段の領域と位置付けられてきた。確かに、「善」や「正義」がそれ自体として目的となるのに対し、「財」はそれを使って何をするかが重要であり、「財の増殖」そのものを目的とするのは、ありがちとはいえFというほかはない。また、「科学者コミュニティにおける仮説の自由競争」に信をおくのが科学とすれば、資本主義は、「市場における商品・価格の自由競争」に信をおくシステムである。すなわち、「マーケットの自由競争を勝ち抜いたもの」大量に売れたものが暫定的に「良い商品」となり、結果、全員を拘束する「スタンダード」が形成される。例えば、Windows95とは何であつたか。それまで日本語ワープロソフトには、良質な商品が複数存在していた。しかし、Windows95

が市場をロックオンしてからは、使い勝手の悪いWordがスタンダード化され、誰もがそれを使用する破目に陥ったのである。交換価値(量)は使用価値(質)を凌駕する。街から喫茶店は駆逐され、コーヒーでさえコンビニでテイクアウトする日々がくる。

「はじめに言葉ありき」、これが前近代の社会で、神や王の言葉こそ「正しさ」であった。これに対し近代では、「はじめに競争ありき」となる。競争に勝ったものが暫定的「正しさ」を獲得するのだから、人々は皆、せわしなく急き立てられることとなる。孫子は、戦いの本質を「速度」と看破した。「競争パラダイム」の社会では、スピードが勝敗を決するのである。よって、学生も教員もビジネスパーソンも子どもたちも、皆が皆、日々アップデートすべく急き立てられることとなる。ある者は受験に、ある者は就活に、ある者は競争的資金の獲得へと急き立てられ、いま勉強しているのは単位のため、単位は卒業のため、卒業は就職のため、就職は金銭のため、そのためには昇進、そのためには数値目標クリア、そのためには研修でアップデート……と続いていく(A for B for C for D for...)。人々をつねに、その次、その次、その次、その次へと急き立てられるのである。なぜ「現在」を生きるのではなく、「未来」を生きようとしているのか？ 生きるとは、「いま」を生きることだが、近代人は、一杯のお茶を一期一会に、ただ「味わうために味わう」(A for A) ことなく、たとえば健康のために飲むのである。

こうした **F** は、近代社会のいたるところに見られる。ここ150年の偉大な思想家で、近代における「手段の自己目的化」、つまりは「従」であるべき財や技術が「主」となる逆転を批判しなかった者はいない。各人それぞれの立場から、「近代の超克」が試みられたのである。その結果、どうなった？ 近代への挑戦者(マルクス主義、フアシズム、原理主義 etc.) はすべて退けられ、資本主義&テクノロジーは加速を続けている。

(堀田新五郎「撤退は知性の証である」)

[注] *1 アリオリな真理：アリオリは「先験的、先天的」と訳され、「経験に先立ち、経験に依拠せずに、成立している知識や命題」を指す。この場合は、「経験に先立ち、

実験や観察などの経験に依拠せずに、正しいと判断されている「真理」という意味になる。

問一 空欄 **A** に入る文として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1
- ① もちろん欲望を満たせるから
 - ② もちろん刺激に満ちているから
 - ③ もちろん便利だから
 - ④ もちろん普及しているから

問二 空欄 **B**、**D** に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 2
- ① B：「実質・目的」 C：「形式・手段」 D：「実質・目的」
 - ② B：「形式・手段」 C：「実質・目的」 D：「形式・手段」
 - ③ B：「実質・目的」 C：「形式・手段」 D：「形式・手段」
 - ④ B：「形式・手段」 C：「実質・目的」 D：「実質・目的」

問三 空欄 **E** に入る文として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 3
- ① 真理が無制約で与えられることはない
 - ② 真理が無批判で与えられることはない
 - ③ 真理が無反省に与えられることはない
 - ④ 真理が無媒介に与えられることはない

問四 空欄 **F** (2か所あります) に入る語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 4
- ① 矛盾
 - ② 倒錯
 - ③ 誤認
 - ④ 失敗

問五 本文の内容と一致しないものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

5

- ① グローバリゼーションとは、西洋近代システムの地球的拡大を意味し、それを牽引し加速させているのは、資本主義とテクノロジーであるが、資本主義もテクノロジーも、「形式・手段」を問題にはしないために、世界中に拡散した。
- ② 資本主義は、「市場における商品・価格の自由競争」に信をおくシステムであり、「マーケットの自由競争を勝ち抜いたもの＝大量に売れたもの」が暫定的に「良い商品」となり、その結果、全員を拘束する「スタンダード」が形成される。
- ③ 前近代の社会では、神や王の言葉こそ「正しさ」であったが、近代では、「はじめに競争ありき」となる。競争に勝ったものが暫定的「正しさ」を獲得するから、人々は皆、せわしく急ぎ立てられる。こうした「競争パラダイム」の社会では、スピードが勝敗を決する。
- ④ ここ150年の偉大な思想家で、近代における「手段の自己目的化」、つまりは「従」であるべき財や技術が「主」となる逆転を批判しなかった者はいないが、そうした多くの批判にも拘わらず、資本主義&テクノロジーは加速を続けている。

(二)

これまでのお話でお分かりいただけたと思いますが、現在、世の中にあふれている医学や健康に関する情報は玉石混濁です。場合によっては命に関わるような重要な問題であるにもかかわらず、ある意味、いい加減な情報がネットなどに乗っかっていう間に広まってしまふことが多々見受けられます。ここでは、一般の方にはあまり耳なじみがないかもしれませんが、エビデンスという、情報を判断する上での基準についてお話をしたいと思います。

医学の分野でエビデンスとは、一つの治療法が病気や症状に対して、効果があるかどうかを示す「証拠」や「裏付け」を指します。そしてエビデンスといわれ

るものにもレベルがあります。

エビデンスレベルは、そこで見られた^{*1}相関関係がどれほど強く因果関係を示しているかの確率の高さで決まっています。一番高いのは、無作為比較試験というものになります。無作為比較試験は、研究対象者をランダムに2つのグループに分け、一方には研究しようとしている治療を行います。そしてもう片方には異なる治療を行い、一定期間後に治療効果などを比較して、介入の効果を検証する方法です。双方に行う治療法の違い以外の要素・条件は A で、その治療法の効果のみが評価できるのです。

エビデンスレベルの2番目は観察研究です。これは、病気を発症する原因に近づいた集団と近づいていない集団、それぞれを一定期間追跡し、病気の発症率を比較するものです。これは無作為比較試験と比べると信頼性は劣りますが、一方で10年20年という長いスパンで見ることができる方法です。

3番目が症例対照研究です。これは、「ある患者にはこういう現象がありました。その現象は健康な人とはこういう点で違います」という比較研究です。これだと、病気の原因と推測されるものと、発症の因果関係まではつかむことができません。しかし、例えば1型糖尿病の遺伝子などを調べようとしたら、このやり方しかできないわけです。

そして4番目が症例報告です。「臨床現場でこんな症例がありましたよ」という、単純な報告です。例えば薬の副作用などは、症例報告から明らかになってくるわけです。その症状は、もしかしたら偶然別の要因で起こっているのかもしれない、正確には分からないのですが、とりあえず報告しておくことは大事だというレベルです。

ちなみに、エビデンスとは言えないかもしれませんが、症例報告よりも低いエビデンスレベルのものとして、専門家の意見、コンセンサスがあります。また、さらにその下には動物実験や細胞実験のデータが存在します。この点については、後で改めて述べたいと思います。

エビデンスレベルという概念は、1991年にカナダの臨床疫学者のゴードン・ガイアットという人が提唱した「科学的根拠に基づく医療 (evidence-based medicine=EBM)」の中で示されたものです。ですから、1980年代までに医者になった人たちは、医者になってから初めてエビデンスレベルという概念に触れることになりました。

研修医だったら色々なものを取り込もうと勉強しますが、この時点で既に専門医レベルになっている人は、自分の専門領域の研究に必死で、エビデンスレベルの概念を十分に学べていない可能性があると感じています。症例報告は研究報告よりも格が低いということくらいは見れば分かりますが、無作為比較試験と観察研究というエビデンスレベル1と2の違いが分からず、エビデンスレベル1の研究結果が出ているのに、2でまだ戦えると思ってしまう節があります。

既にエビデンスレベル1の確たる結果が出ているようなことに対し、マウスのデータで異論を唱えたりする論調を見ると、「科学的根拠に基づく医療 (EBM)」を学んだ立場からは強い違和感を覚えざるを得ないのです。

糖質制限についても以前、いくつかの症例を集めた症例報告のレベルで、『主食を抜けば糖尿病は良くなる！』という本を出版し、世の中に訴えてしまった例がありました。本の著者は、その症例報告を論文にもしていませんでした。そして出版した時点で既に、糖質摂取の少ないグループで問題が起こるのではないかと、という観察研究のデータが存在していました。エビデンスレベル2の研究結果がある分野に、エビデンスレベル4で挑んだ形になってしまったわけです。

当然、その本は叩かれてしまい、糖質制限そのものにも疑いの目が向けられるという結果を呼んでしまいました。

しかしその後、糖質制限に関してはエビデンスレベル1の無作為比較試験を行った結果、はっきりとした効果が確認できたという報告がいくつも出てきて、結果的に間違いなくいいものだろうということになりました。エビデンスレベル1の無作為比較試験による結果だから、レベル2の観察研究の結果を否定することができたのです。

特に日本人の場合には、糖質制限のほうがいいということは、エビデンスレベル1の証拠が揃った上に、レベル2の観察研究においても糖質摂取の少ない群で死亡率が低いと報告されており、B。いまだに時々「糖質制限は危ないのでは」ということを言う人がいたり、記事が出たりすることがありますが、その方は正しい論文の読み方、解釈の仕方を知らないだけなのだろうと思います。

そういった怪しい情報の中には、「そうは言っても統計で裏付けされているから間違いない」とゴリ押しをしてくるものもあります。しかし統計というものはある意味、「もともと上手にウソをつくための方法だ」という人もいるくらい、注意深く検証する必要があるものです。切り口次第で自分が主張したいことに都合のいいデータを、いくらでも示すことができるからです。統計学における相関関係は、必ずしも因果関係を意味しないという鉄則を、読む側が十分認識しておく必要があります。

かつて脂質が危ないと主張されたときも、統計に対する過信がありました。20世紀の観察的なデータを見ると、病院にかかっている日本人の糖尿病患者数は、油の摂取比率の増加と同じような曲線を描いて増加していることが分かります。このことから当時、日本では摂取する油を減らすことができれば、糖尿病の患者も減らせると、まるで両者に因果関係があるかのように信じられたわけです。

C 実際には日本人は21世紀になってから油の摂取量をもの見事に減らしたにもかかわらず、1997年に1370万人だった血糖異常者は、2007年に2210万人にまで激増しています。逆に2012年の血糖異常者は2050万人と、少し減少していますが、実はその間の日本人の油の摂取量は少し増えているのです。21世紀になってからのこのデータは、油の摂取量を減らすと糖尿病の患者が増え、油の摂取量が増えたと、血糖異常者の数が減るというデータになってしまいます。

実際はDがないのに、先入観からEを読み込んでしまうと、大きな間違いを犯す可能性があるわけです。Fのある2つの事象に因

果関係があるかどうかは、それを読む側が慎重に判断しなくてはなりません。観察研究データを因果関係とダイレクトに読み込むことは、極めて危険なわけです。

(山田悟『糖質制限の真実』)

[注] *1 相関関係がどれほど強く因果関係を示しているか…相関関係とは、二つの事象の間に、関連性があり、一方の事象が変化すると、他方の事象が変化することを目指す。ただし、相関関係においては、変化の背景にある本当の原因は何かということとは確定できていない(＝二つの事象以外のものが変化の原因となって、二つの事象に変化が生じている可能性があるが、そのことは確定できていないということ)。これに対して、因果関係とは、原因である事象と、それによって生じた結果である事象との関係のことで、原因である一方の事象が変化することによって、結果である他方の事象が変化すると確定できる関係のことを指す。

問一 空欄 に入る文として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① すべて異質にすること
② すべて良質にすること
③ すべて同じにすること
④ すべて排除すること

問二 空欄 に入る文として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 現時点では未確定の事実と考えてよいでしょう
② 確定できる可能性が少ない事実と考えてよいでしょう
③ 確定できる可能性がない事実と考えてよいでしょう
④ もう決して動かない事実と考えてよいでしょう

問三 空欄 **C** に入る語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 8** ① だから ② しかし ③ なぜなら ④ もちろん

問四 空欄 **D**、**F** に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 9** ① D：相関関係 E：因果関係 F：相関関係
② D：因果関係 E：相関関係 F：因果関係
③ D：相関関係 E：相関関係 F：因果関係
④ D：因果関係 E：因果関係 F：相関関係

問五 本文の内容と一致しないものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 10** ① 医学の分野でエビデンスとは、一つの治療法が病気や症状に対して、効果があるかどうかを示す「証拠」や「裏付け」を指す。エビデンスにはレベルがあり、それは、そこで見られた相関関係がどれほど強く因果関係を示しているかの確率の高さで決まり、一番高いのは、無作為比較試験になる。
- ② エビデンスレベルが提唱された時点で既に専門医レベルになっている人は、エビデンスレベルの概念を十分に学べていない可能性がある。そのため、エビデンスレベル1と2の違いが分からず、エビデンスレベル1の研究結果が出ているのに、2でまだ戦えると思ってしまう節がある。
- ③ 症例報告のレベルで、『主食を抜けば糖尿病は良くなる！』という本が出版された例があった。しかし、糖質摂取の少ないグループで問題が起こるのではないかという観察研究のデータが既に存在していたため、その本は叩かれた。その結果、糖質制限そのものにも疑いの目が向けられ、現在に至っても糖質制限の効果は疑問視されて

いる。

- ④ 20世紀の観察的なデータを見ると、日本人の糖尿病患者数は、油の摂取比率の増加と同じような曲線を描いて増加していたため、摂取する油を減らすことができれば、糖尿病の患者も減らせると信じられた。しかし、21世紀になってからのデータを見ると、油の摂取量を減らすと糖尿病の患者が増え、油の摂取量が増えると、血糖異常者の数が減るといったデータになっている。

問題Ⅱ 次の各問について、その解答を選択肢の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

問一 次の身体の一部を表す語を用いた慣用句の中で、空欄に入る語が異なるものはどれですか。

- 11
- ① 祖母が□によりをかけて漬けた梅干し。
 - ② 彼はその□を買われて採用された。
 - ③ □に覚えのある猛者ばかりが集まる。
 - ④ 高価な買い物だが背に□は替えられない。

問二 次の文中の四字熟語の空欄に入る語として、最も適切なものはどれですか。

- 12
- 相手に良く思われようと巧言□色を尽くす。
- ① 礼
 - ② 令
 - ③ 麗
 - ④ 励

問三 次の空欄に入る文として、最も適切な敬語表現はどれですか。

「いらっやいませ。ご面会でしたら、あちらの窓口で□。」

- 13
- ① お伺いください
 - ② お問い合わせになられてください
 - ③ お尋ねください
 - ④ お聞きいただけますか

問四 次の傍線部の意味として、最も適切なものはどれですか。

- 14
- 証拠を突きつけられた彼はまな板の鯉のようだ。
- ① どうしようもなく意気消沈するさま
 - ② 追い詰められても堂々としているさま
 - ③ 何もすることができずあきらめているさま
 - ④ 何事もなかったかのように装うさま

問五 次のうち、対義語の組み合わせでないものはどれですか。

- 15 ① 共同―単独 ② 添加―削除
③ 反乱―謀反 ④ 繁栄―衰退

問六 次の作品名と成立の時代の組み合わせのうち、正しくないものはどれですか。

- 16 ① 紫式部日記―平安時代 ② 平家物語―平安時代
③ 新古今和歌集―鎌倉時代 ④ 野ざらし紀行―江戸時代

問七 次の作品のうち、三島由紀夫の作品でないものはどれですか。

- 17 ① 潮騒 ② 金閣寺 ③ 仮面の告白 ④ 銅首

問題Ⅲ 次の各問について、その解答を選択肢の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

問一 次のA～Dの各群の①～④のうち、傍線部の漢字の読みが適切でないものはどれですか。

- 18 A
- ① 友人に懇願(こんがん)してお金を借りた。
 - ② 後で金銭の貸し借りを相殺(そうさつ)した。
 - ③ 恋愛をとるか友情をとるか葛藤(かとう)する。
 - ④ 自分は友を裏切る気持ちなど微塵(みじん)もない。
- 19 B
- ① 小学生の頃は、算盤(さんばん)を習っていた。
 - ② 中学生の頃は、猛烈(もうれつ)な校内暴力があった。
 - ③ 天気は一気に快晴(かいせい)となった。
 - ④ 気温が上がり、雪崩(なだれ)が起きた。
- 20 C
- ① 味方チームの叡智(とんち)を結集して作戦を立てた。
 - ② 自分はケガで出場選手登録を抹消(まつしょう)された。
 - ③ ボクシングはパンチの応酬(おうしゅう)が面白い。
 - ④ 相手の弱点を執拗(しつよう)にパンチで攻撃する。
- 21 D
- ① パーティーを開いて女性と親睦(しんぼく)をはかる。
 - ② 知り合った女性が既婚者と知って愕然(ぼうぜん)とする。
 - ③ 夜の祇園を満喫(まんきつ)した。
 - ④ 豪勢(ごうせい)な食事のためか、糖尿病になった。

問二 次のア～エの傍線部と同じ漢字を含むものはどれですか。

- 22 ア 糖尿病になってしまい、医者から糖質制限をゲンメイされた。
- ① 食生活を改善しないと、血糖値のゲンショウは望めない。
 - ② 妻のゲンカクな食事管理のもとで食生活は一変した。
 - ③ 毎日、同じような食事ばかりで、ゲンキが出ない。
 - ④ エイヨウゲンであるタンパク質は摂取する必要がある。

23

イ 血糖値と血圧を下げる薬をフクヨウすることになった。

- ① 毎朝、薬を飲んでからフクムすることになった。
- ② 高血圧の薬のフクサヨウで倒れてしまった。
- ③ 症状がカイフクすることを目指して努力する。
- ④ 甘いものや糖質を好きなだけ食べた日々はコウフクだった。

24

ウ アイドルのライブに遠征を重ねて、貯金をロウヒした。

- ① 身体がロウカしているのに、若い頃と同じように遊ぶ。
- ② カロウのため、遠征先で発熱した。
- ③ 遠征先の地域には、ハロウ警報が出ている。
- ④ ロウヤにでも入れない限り、彼は遊ぶのをやめないだろう。

25

エ 遠征費やカメラ・レンズの購入費を確保するため、ケンヤクする。

- ① 彼がカツヤクするのは、遊ぶ場面だけだ。
- ② ヤクドシも気にせずに、遊びまくる。
- ③ 一家の長としてのヤクワリを忘れて、遊びに金を使う。
- ④ もう無駄遣いはしないとヤクソクしても信用されない。

